

経済統計 練習問題

第3回 全数調査と標本調査(1)

2018年10月1日

問1 以下の文章を完成させよ。

統計調査には調査対象すべてを調査する{(a) 全数調査 (b) 標本調査}と、その一部を取り出して調査する{(a) 全数調査 (b) 標本調査}の2種類がある。

{(a) 全数調査 (b) 標本調査}には時間や費用が削減できるなどのメリットがあるが、抽出した標本ごとに結果が異なるという の問題がある。また、{(a) 全数調査 (b) 標本調査}には母集団のリストを作成する役割があるので、すべての調査を{(a) 全数調査 (b) 標本調査}とすることはできない。

世帯についての全数調査は国勢調査である。この調査は 年ごとに実施されるので、次回調査は 年である。

問2 国勢調査の結果、どのようなことがわかるか、以下の(あ)～(お)の中で、わかるものには○を、これだけではわからないものには×を解答欄に記入せよ。(平成27年調査の調査票をみて考えること。)

(あ) 山口県の20歳男性は何人か。

(い) 日本全体で通勤時間が45分以上の人はどれぐらいいるか。

(う) 周南市内に住んでいる中学校の先生と、岩国市内に住んでいる中学校の先生はどちらが多いか。

(え) 山口県で一戸建てに住んでいる人の割合はいくらか。

(お) 下松市に住んでいる人の平均年収はいくらか。

(あ)	(い)	(う)	(え)	(お)

問3 各府省の実施する統計調査と標本抽出法の組合せに関し、表中の（ア）～（ウ）に当てはまる標本抽出法として、最も適切な組合せを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

統計調査	標本抽出法	概要
家計調査(総務省)	(ア)	全国の市町村を人口規模などにより層化し、全国計168の各層から、1市町村ずつ抽出する。抽出した市町村について、調査を行う単位区を無作為に抽出する。抽出した各単位区内の全居住世帯の名簿を作成した上で、二人以上の世帯については1単位区から6世帯、単身世帯については2単位区から1世帯を無作為に抽出する。
労働力調査(総務省)	(イ)	全国の国勢調査調査区について、地域ごとに住居の形態や産業・従業上の地位別就業者構成により層化し、各層から調査区を抽出する。抽出した各調査区内の全住戸の名簿を作成した上で、1調査区当たりの抽出住戸数がほぼ15となるように、系統抽出法で住戸を抽出する。
国民健康・栄養調査(厚生労働省)	(ウ)	国民生活基礎調査で設定された約2,000調査区について、産業特性等の状況により層化し、各層から計300の単位区を無作為に抽出する。抽出した各単位区内の全世帯に対して調査を行う。

- ① (ア) 層化二段抽出法 (イ) 層化三段抽出法 (ウ) 層化集落抽出法
- ② (ア) 層化二段抽出法 (イ) 層化集落抽出法 (ウ) 層化三段抽出法
- ③ (ア) 層化三段抽出法 (イ) 層化二段抽出法 (ウ) 層化集落抽出法
- ④ (ア) 層化三段抽出法 (イ) 層化集落抽出法 (ウ) 層化二段抽出法
- ⑤ (ア) 層化集落抽出法 (イ) 層化二段抽出法 (ウ) 層化三段抽出法